

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年 月 日

協議会名:嘉麻市地域公共交通会議

評価対象事業名:R4年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
嘉穂観光株式会社	稲築桂川線 (市役所・嘉麻市役所経由)	日中の移動ニーズに合わせた便の追加や、早朝や夜間に利用の少ないバス停を経由しない等の部分的な修正、効率的な運行を目的とした全体的なダイヤの見直しを実施した。 また、改定に伴い、利用者への周知として、嘉麻市総合時刻表の全戸配布や市内外主要施設への設置、広報誌への定期掲載、また、市内在住の学生に向けた通学定期券の補助制度を継続して実施し、バスの利用呼びかけを行った。	A	事業が計画に位置付けられた目標を達成した。	適宜利用者からの要望や意見を精査し、ダイヤや路線の見直しを実施してきました。 今回は、目標としていた収支率20%に到達し、前年度と比較すると7.8%上昇しており、現在も利用者数も増加傾向にあります。 今後はより効率的な運行を目指すために、意見や要望の検証をしながら適宜見直しをかけていくとともに、市バス自体の周知や利用者育成にも視野を向け、利用しやすい、わかりやすい市バスを目指した事業等を実施予定です。
	稲築桂川線 (東岩崎・嘉穂総合高校経由)		A		
	稲築桂川線 (なつきが丘・嘉麻市役所・稲築病院経由)		A		
	稲築桂川線 (嘉麻市役所経由)		A		
	稲築桂川線 (なつきが丘・嘉麻市役所経由)		A		
	稲築桂川線 (山野社宅～稲築病院)		A		
株式会社ひまわり観光	市内循環線 東回り 山田方面	稲築桂川線同様に、市民からの要望を基に、早朝や土日祝日などの特定の時間に乗降がないバス停を経由しない系統の部分的な修正等、効率的な運行を目的とした全体的なダイヤの見直しを実施した。 また、稲築桂川線と同様の広報活動を実施し、路線の周知に努めた。	A	事業が計画に位置付けられた目標を達成した。	稲築桂川線同様に、令和2年に大幅な見直しをかけ、その後も継続して利用者の要望や意見を検証し適宜見直しを実施してきました。 今回は、目標としていた収支率20%に到達し、前年度と比較すると4.2%上昇しています。 今後も更なる利便性向上、効率的な運行のため、適宜路線ダイヤの見直しを実施しながら、市バス自体の周知や利用者育成にも視野を向け、利用しやすい、わかりやすい市バスを目指した事業等を実施予定です。
			A		
			A		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年 月 日

協議会名：	嘉麻市地域公共交通会議
評価対象事業名：	R4年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	嘉麻市は福岡県のほぼ中央に位置し、面積は135.11km²、人口は35,529人(令和4年12月末時点)となっており、近年では高齢化率が40.35%と人口減少と高齢化が進展している。 本市においては、平成29年に嘉麻市地域公共交通網形成計画を策定しており、網形成計画に定める実施事業において、利便性の高い交通環境を構築し、市内外を結ぶ公共交通路線の確保を掲げている。 市内稲築地区にはJR後藤寺線の下鴨生駅が立地し、飯塚市及び田川市方面へのアクセス性を有するが、福岡市や北九州市方面等の広域的なアクセスにおいては、隣接する桂川町に立地するJR福北ゆたか線の桂川駅への住民の移動ニーズが高い。さらに、稲築地区と桂川駅を繋ぐ沿線には、稲築志耕館高校、嘉穂総合高校の2つの高校が立地し、市内から嘉穂総合高校、市外から稲築志耕館高校の双方のアクセス性の確保も求められる。 また、稲築地区には市役所本庁舎があり、市内外からの移動ニーズが高まっている。併せて、山田地区ではスーパー等の商店が閉店し、1店舗のみとなっており、山田地区から稲築地区に立地しているスーパーやホームセンター等商業施設への移動にもニーズがある。 このため、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせ稲築地区と桂川駅を繋ぐ稲築桂川線、山田地区と稲築地区を繋ぐ市内循環線(東回り 山田方面)を確保、維持することで、生活交通ネットワークの構築を進めている。

概 要

嘉麻市には、鉄道や路線バス、嘉麻市バスなどの交通手段があります。各交通手段については、次のとおりです。

- ◎鉄道について: 嘉麻市内には、JR後藤寺線(下鴨生駅)があり、新飯塚方面や田川後藤寺方面へ運行されています。
- ◎路線バスについて: 嘉麻市内には、西鉄バスの3路線(飯塚～大隈線、上山田線、碓井線)があります。
- ◎嘉麻市バス: 嘉麻市では、定時定路線を10便、デマンド運行型バスを合併前の市町の4地区ごとに運行しています。

◎嘉麻市バス稲築桂川線(国庫補助事業対象路線)

この路線は、市北西部に位置し、市内唯一の鉄道駅のある稲築地区と、九州の中核都市である福岡市への鉄道最寄り駅となる桂川駅を結ぶ路線です。路線の沿線には高校が2校立地し、市内外からのアクセス性を確保しています。

【運行便数】1日26便

- ・市役所、稲築病院経由: 16便
- ・なつしが丘・市役所・稲築病院経由: 3便
- ・東岩崎、嘉穂総合高校経由: 2便
- ・市役所経由(志耕館高校を経由しない): 2便
- ・山野社宅～稲築病院: 2便

【運行距離】

- ・市役所、稲築病院経由: 12.9km
- ・なつしが丘・市役所・稲築病院経由: 13.3km
- ・東岩崎、嘉穂総合高校経由: 14.3km
- ・市役所経由(志耕館高校を経由しない): 11.6km
- ・山野社宅～稲築病院: 5.2km

【バス停数】27箇所

◎市内循環線(東回り山田方面)(国庫補助事業対象路線)

この路線は、山田地域と令和2年4月から供用開始した市役所新庁舎を繋ぎ、通学での利用や、スーパーやホームセンター等の商業施設利用を加味し、山田地域から稲築地域へのアクセス性を確保しています。

【運行便数】1日13便

- ・総合バスステーション、稲築病院経由: 8便
- ・〃(嘉穂支所を経由しない): 4便
- ・稲築病院～生涯学習館: 1便

【運行距離】

- ・総合バスステーション、稲築病院経由: 20km
- ・〃(嘉穂支所を経由しない): 17.8km
- ・稲築病院～生涯学習館: 12.4km

【バス停数】43箇所



基礎データ

合併状況: 平成18年3月1市3町(山田市・稲築町・碓井町・嘉穂町)が合併
 人口: 35,529人(令和4年12月末時点)
 面積: 135.11平方キロメートル
 過疎地域等指定: 過疎
 高齢化率: 40.35%(令和4年度時点)

補助対象の系統数: 5系統(地域間幹線系統3、フィーダー系統2)
 自治体負担額: H28 72,667千円、H29 77,043千円
 H30 79,265千円、H31 106,963千円
 R2 103,647千円、R3 107,856千円
 協議会開催数: 交通会議5回(交通計画に係るものは4回)

計画、目標(Plan)

※国庫補助事業の対象である稲築桂川線・市内循環線(東回り 山田方面)に限定

本市は、平成29年に嘉麻市地域公共交通網形成計画を策定しており、利便性の高い交通環境を構築し、市内外を結ぶ公共交通路線及び生活交通手段の確保、維持を目標としています。

嘉麻市地域公共交通網形成計画に定める実施事業において、稲築地区から桂川方面への路線(稲築桂川線)を維持することにより、市民の市内外への移動や、路線沿線に立地する市内外高校2校へのアクセスの確保。また、稲築地区と山田地区を直接運行する路線(市内循環線(東回り 山田方面))を維持することにより、稲築地区にある市役所本庁舎への市内外からの移動及びスーパー等の商業施設や、市内高校2校へのアクセスを確保することを目指します。

またそれらの数値目標として、各路線収支率20%を目標として定めています。

この計画は、将来のまちづくりの指針となる「第2次嘉麻市総合計画」などの上位計画と綿密な連携を図るものです。

生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

※国庫補助事業の対象である稲築桂川線・市内循環線(東回り 山田方面)に限定

平成31年4月から稲築地区と桂川駅を結ぶ稲築桂川線の運行を開始。路線沿線には稲築志耕館高校と嘉穂総合高校の2校が立地しており、市内外から双方の学校へ通学できるように運行を行っています。令和2年度には利用者の実状に併せて上下便ともに増便、令和3年度、令和4年度にも利用ニーズに合わせた増便や、早朝や夜間などの特定の時間に乗降りがないバス停を経由しない系統に部分的に修正するなど効率的な運行を目的とした見直しを実施しました。

令和2年4月から山田地区と市役所本庁舎や、稲築地区に立地する商業施設を繋ぐ市内循環線(東回り 山田方面)の運行を開始し、令和4年度には稲築桂川線同様に利用者の実状に併せた系統の修正等を実施しました。

また、両系統ともに、利用者の意見や要望等を検証し、適宜ダイヤや路線等の修正を行い、定期的に広報誌や嘉麻市ホームページ、嘉麻市総合時刻表の市内外への配布等により、更なる利便性向上や、利用者数を増やす取組に努めました。

実施状況、目標の達成(Check)

※国庫補助事業の対象である稲築桂川線・市内循環線(東回り 山田方面)に限定

稲築桂川線の収支率は22.3%で、昨年度より7.8%上昇しており、目標値であった20%を上回りました。利用者数も徐々に増加傾向にあり、当初の想定どおり、継続して高校生の通学での利用が見て取れました。

市内循環線(東回り 山田方面)についても稲築桂川線同様に収支率23.3%で目標の20%を上回る結果となりました。

今後の課題、対応(Action)

※国庫補助事業の対象である稲築桂川線・市内循環線(東回り 山田方面)に限定

稲築桂川線及び市内循環線(東回り 山田方面)については既に路線として構築されている状態であり、市民に対しても周知されてきたところではありますが、路線の更なる利便性の向上のため、利用者アンケート等で把握した利用者ニーズに合わせた見直しや、市バス自体の周知や未来の利用者(子どもや現在は自分で運転している人)育成にも視野を向け、利用しやすい、わかりやすい市バスを目指し、継続した周知活動と合わせて、新規利用者の獲得を目的とした事業等を実施予定です。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和5年 月 日

協議会名:嘉麻市地域公共交通会議

評価対象事業名:R4年度地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定事業)□

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画等の計画策定等に向けた方針
1. 地域及び公共交通などの現状調査・整理 地域及び公共交通などの現状及び、平成29年度からの嘉麻市地域公共交通網形成計画の成果を把握、整理するために、既存の上位・関連計画の方向性の整理や、市民アンケート等でのアンケートを複数実施し、市民や利用者の意向を把握した。 2. 公共交通の問題点・課題の整理 上記のアンケート結果を基に、嘉麻市の公共交通の問題点、課題点を整理した。 3. 嘉麻市地域公共交通計画(案)の取りまとめ 調査等を踏まえ、地域にとって望ましい公共交通のあり方についての基本方針をまとめ、その基本方針に沿って、持続可能な公共交通網の形成に向けた目標、事業の実施主体、スケジュール等を反映させた計画(案)を取りまとめた。	A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。	・今年度中に地域公共交通計画を策定予定。 ・2月からパブリックコメントを実施し3月中に協議会で最終決定を行い国へ提出を行う。 ・現在策定中であるが、調査結果を踏まえ、下記の内容で計画を策定する。 【計画の区域】 嘉麻市全域及び関連する周辺地域 【計画期間】 令和5年度～令和9年度の5年間 【基本方針】 嘉麻のひと・まち・未来をつなぐ公共交通をみんなで創り、育て、磨き上げる 1. 高齢者や学生等が公共交通で気軽に外出・移動できる環境の整備 2. 転入や来訪の促進に資する嘉麻市に魅力を感じる交通環境の整備 3. 様々な交通モード・路線によって広域的に移動しやすく、賑わい創出にも資する環境整備 4. 嘉麻市に適したサービスの提供と利用促進の好循環による公共交通の持続性の確保 を基本方針とし、各種目標及びそれに基づく施策を展開していく。

調査事業の概要

【調査事業を行うエリアの概要】

・鉄道について

嘉麻市内には、JR後藤寺線（下鴨生駅）があり、新飯塚方面や田川後藤寺方面へ運行されています。

・路線バスについて

嘉麻市内には、西鉄バスの3路線（飯塚～大隈線、上山田線、碓井線）があります。

・嘉麻市バス

嘉麻市では、定時定路線を10便、デマンド運行型バスを合併前の市町の4地区ごとに運行しています。

・タクシー事業者

3事業者

・その他

【嘉麻市の概要】

本市は福岡県のほぼ中央に位置する市で、人口35,529人（令和4年12月末現在）、総面積135.11km²で、市の約72%が森林と耕作地となっている。人口に対しての高齢化率は、若年層の流出や出生率の減少により令和4年度時点で40.35%で、他の自治体と比較しても高齢化が進んだ地域といえる。

また、市の南北を走る幹線道路として国道211号、東西を走る幹線道路として国道322号が走っており、その2つが交差する牛隈地区は交通の要衝となっている。

【調査事業の主な内容】

1. 地域及び公共交通などの現状調査・整理
2. 公共交通の問題点・課題の整理
3. 嘉麻市地域公共交通計画（案）の取りまとめ

基礎データ

合併状況：平成18年3月1市3町（山田市・稲築町・碓井町・嘉穂町）が合併

人口：35,529人（令和4年12月末時点）

面積：135.11平方キロメートル

過疎地域等指定：過疎

高齢化率：40.35%（令和4年度時点）

補助対象の系統数：5系統（地域間幹線系統3、フィーダー系統2）

自治体負担額：H28 72,667千円、H29 77,043千円

H30 79,265千円、H31 106,963千円

R2 103,647千円、R3 107,856千円

協議会開催数：交通会議5回（交通計画に係るものは4回）

調査前の地域交通状況（Before）

本市の公共交通においては、平成29年に嘉麻市地域公共交通網形成計画を策定し、網形成計画に定める、利便性の高い交通環境を構築するため、合併前から踏襲し、合併後も引き続き運行していた旧市町区域ごとの市バスや福祉バスの全体的な見直しを行った。福祉バスの市バスへの統合、既存路線の見直し、新たな路線やデマンド運行型バスの導入、運賃改定等を行い、令和2年4月から新たな嘉麻市バスとして運行を開始した。

その後令和3年、令和4年と利用者からの要望等を基に、一部路線やダイヤの変更等を適宜改善しており、利用者数は増加傾向にあるものの、依然厳しい状況が続いている。

利用者数目標値：120,000人／令和3年度利用者数：109,031人
収支率目標値：20%／令和3年度収支率：17%（算定期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日、補助金を除く）

その他の交通手段としては、西鉄バス筑豊が3路線運行しており、利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり年々減少の傾向にあり、全ての路線に他の自治体と赤字補填を行っている。

また、JRでは市内に下鴨生駅があるが、こちらも同様に年々利用者は減少傾向にある。

上記のとおり、嘉麻市全体の公共交通に関しては、市バスの収支率が目標に達しておらず、民間路線バスへの赤字補填などの経費負担が大きい状態であるため、利用者増加及び収支率向上のための効率的な公共交通体系への取組みが求められる状況である。

調査後の地域交通計画（After）

8 目標の実現に向けて実施する施策・事業

目標の実現に向けて実施する施策・事業を以下に示します。また、各事業の具体的内容を次頁以降に示します。

